

02・他の子が帰ってきたのに、こたつの中で犯される

トラック01からそのまま続き。

『はちみつ荘』一階リビング。

みつみ、主人公に覆いかぶさった状態でキスしている。

SE1 外の環境音

【トラック01と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【部屋の外の音を、部屋の中から聞いている】

【0―5秒ほど流して『みつみ』のセリフ】

【その後、音量が小さくなる】

【トラック終了まで流し続ける】

SE2 部屋の環境音（暖房の音）

【トラック01と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【部屋の外の音を、部屋の中から聞いている】

【0—5秒ほど流して『みつま』のセリフ】

【その後、音量が小さくなる】

【トラック終了まで流し続ける】

● 正面 0センチ

「※しばらく※ キスする。

軽く唇が触れるだけのキスから、段々濃厚なキスになっていく」
ん……。

ちゅ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡

んんんう……ちゅっ♡

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅっ♡

【ディープキスに移行する。

ねっとり、濃厚なディープキス】

んんんう……ちゅっ♡

れーろお……ちゅ♡

ちゅ、ちゅ、ちゅっ。

じゅるるる……ちゅ♡

れるれる……ちゅるっ♡

ちゅばっ♡　ちゅるっ。　ちゅばあっ……♡

【※3回※　ゆっくりと呼吸する。

少し苦しそうなのが、だんだん楽になっていく】

はあ、はあ、ふうっ……♡」

みつみ、会話するために少し離れる。

よほど、主人公の顔を見て確かめたいことがあるようだ……。

●正面　15センチ

「【にやにやと嬉しそうに。

主人公を甘くからかう】

あゝ……♡　えっちな顔してるう……。

ここでしたいの……？

【自分から尋ねつつ、答えを聞く前にもう『いいよ』と言っている】

いいよ？」

みつみ、『正面15センチ』の距離のまま、『無声音ささやき』をする。

● 正面 15センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「【ひそひそと嬉しそうに。

甘くからかう感じで」

もう気持ちよくて、ぱんつぐしよぐしよになっちゃって、気持ち悪いでしょ。

脱いじゃおう……？」※

〈主人公〉

「ここで……？」

主人公が困ったようなそぶりを見せても、みつみの表情は変わらない。

もっとも、主人公のこの反応自体単なるポーズでしかなく、自分がどのような返事をしたところで、これからどうなってしまうかは、もうわかりきっているのだが……。

● 正面 15センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「ひそひそと嬉しそうに。

ややゆっくりと、少し意地悪に言い聞かせる感じで。

主人公の興奮を煽っていく」

……そう。ここで。

いつもみんなで使ってるここで。

このこたつでばんっ脱いで、あたしにクリさん触られてイこう？

もう我慢できないもんね♥ 今すぐ気持ちよくなりたいもんね……♥」※

みつみ、『左 0センチ』に移動して『無声音ささやき』をする。

もう、彼女の中では、これからどうするか、すべて決まっているようだ……。

●左 0センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「※1回※ 耳にキスする」

ちゅ♥

「ひそひそと優しく。

『耳キスや耳舐めをしてあげるの、それと並行して下着を脱いで』と促している」
ほら……ちゅーしててあげるから。

下、脱ごう……?」

〈主人公〉

「……っ♡」

SE3 主人公が下着を脱ぐ音

【最初から最後まで流す】

みつみ、左耳舐めをしながら、主人公に脱ぐように促していく。

●左 0センチ 『耳舐め』

「※しばらく※ 耳舐めとキスをする。

軽く戯れる程度。主人公が脱ぐのを待ったための物なので」

れんろ……ちゅ♡

ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅ♡

えれえれ……ちゅ♡

ちゅるるるっ……ちゅっ♡

【わざとらしく、音を立てて耳から離れる】

ちゅばあっ……♡」

SE 4 みつみが動く音

【最初から最後まで流す】

● 左 0センチ

「【※息づかいのみ※】で表現する。

うっとり満足げに。

主人公が素直に従って服を脱ぎ、ショーツを穿いていない状態になったので
ふー……♡

【ややゆっくりめに、優しくあやすように。
でも、少しセクシーに。

完全にセックスする甘い雰囲気】

脱げたねえ……♡

いい子だね……♡

ちゃんと脱げてえらいねえ……♡

【※3回※】キスする。

じゃれる感じの、軽く触れるだけのキス】

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡

「ややゆっくりめに、優しくあやすように。
でも、少しセクシーに。」

完全にセックスする甘い雰囲気」

よかったね……♡ これからいーっぱい♡
お股気持ちよくなれるよお……♡

「※3回※ キスする。」

じゃれる感じの、軽く触れるだけのキス」
ちゅ♡

みつみ、主人公の顔を見ながら、主人公の股間に触れるために移動する。
一瞬たりとも、主人公の反応を見逃したくないらしい。

●正面 15センチ

「満足げに微笑んで」

ふふ……♡

SE5 みつみがこたつの中で手を動かす音
「最初から最後まで流す」

【0—1秒ほど流して『みつみ』のセリフと重ねて流す】

●正面 15センチ

「小さく漏れる感じで。

こたつの中で、主人公の股間に手を伸ばしている」
んっ………♡

【※7回※ ゆっくりと呼吸する。

興奮気味に、主人公の股間を触り始める】

……はあ、はあ。

はあ……はあ………♡

はあ、はあ、ふうっ………♡」

みつみ、こうして、こたつの中で主人公のクリトリスを愛撫しようとする。
しかし、ここで……。

SE 6 かなえが玄関のドアを開ける音

【トラック01と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

SE7 かなえが玄関の扉を閉める音

【トラック01と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

SE8 かなえが玄関の扉を施錠する音

【トラック01と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

SE9 かなえが靴を脱ぐ音

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

また、誰かが帰ってきた。

誰だろう？ どうしよう？ と思っている間にもその人物はこちらへ向かってくる。

そして、こう言った。

▲ ボイス加工あり

【10メートルほど離れた位置から聞こえる】
〈かなえ〉

「家の中にいる人物全員に話しかけている。

かなえはまだ、誰が在宅なのかわかっていない』
ただいま」

SE10 かなえの足音

【最初から最後まで流す】

【0—1秒ほど流して『みつみ』のセリフと重ねて流す】

【その後も続く場合は、次の『かなえ』のセリフとも重ねて流す】

【『とても遠くで、ぼんやり聞こえる』から、だんだん近づいてくる】

……かなえだ。

みつみ、驚いて少し身体を離す。

● 正面 15センチ

「※息づかいのみ※」

驚いた様子で息をのむ。

まさか誰かが帰ってくるとは思っていなかったのだ」

……！」

かなえ、玄関から歩いてきて、廊下からリビングに向かって話しかける。
しばらくこの位置から話しかけている。

▲ ボイス加工あり

「5メートルほど離れた位置から聞こえる」

〈かなえ〉

「みつみに話しかけている。

きよんととして。

すっかり確認したわけではないが、靴は二人分以上あったように想えたので。

また、リビングに主人公の荷物があるので」

あれえ？ みつみさんだけですか？」

● 正面 15センチ

「かなえに話しかけている。

遠くの人と話している時特有の、ちよつと張った声で。

少し息が荒い感じで。

慌てながらも、なんとか誤魔化す。

かなえにこの状況をバレるわけにはいかないの。

また、帰ってきた理由を尋ねる」

……うん！ 私、だけ。

かなえちゃん、どうしたの？

今日、遅いんじゃないかったっけ……？」

▲ ボイス加工あり

「5メートルほど離れた位置から聞こえる」

〈かなえ〉

「【みつみに話しかけている。

一度帰宅した理由を述べる】

忘れ物しちゃって。

どうしてもないと困るんで、戻ってきたんです……。

だから、またすぐ出ますね………!」

● 正面 15センチ

「かなえに話しかけている。

遠くの人と話している時特有の、ちよつと張った声で。
少し息が荒い感じで。

さらに、ちよつと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す」

……あ、そうなんだあ……わかったあ……。

……っ
「」

SE 11 かなえの足音 2

【最初から最後まで流す】

【だんだん遠ざかる】

かなり苦しいが、どうにかごまかせたらしい。

かなえ、一度リビングから離れて自室に向かおうとする。

その心配が、だんだん遠ざかっていく。

だが、ここでもどこか妙だと気づいたらしい。
足を止め、こちらを覗き込んでくる。

かなえ、先ほどより位置が少し離れている。

▲ ボイス加工あり

「8メートルほど離れた位置から聞こえる」
〈かなえ〉

「みつみに話しかけている。
きよとんとして。

みつみの様子が、何やらおかしいので」
ん？ 大丈夫、ですか？」

● 正面 15センチ

「かなえに話しかけている。
遠くの人と話している時特有の、ちよつと張った声で。

少し息が荒い感じで。

さらに、ちよつと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す」

……えっ……？　だ、大丈夫って、何が……？」

かなえ、再び近づいてくる。

SE12　かなえの足音3

【最初から最後まで流す】

【だんだん近づいてくる】

【5メートルほどの距離でストップする】

▲　ボイス加工あり

【5メートルほど離れた位置から聞こえる】
〈かなえ〉

「【みつみに話しかけている。
少し心配そうに。】

みつみの様子はおかしいが、かなえはそこまで疑ってはいない。

かなえはみつみの様子がおかしいのを『どこかに身体をぶつけたようだ』と解釈しているのだ」

なんか今あ、ぶつけたみたいなの声出してたので……」

よっぽど心配してくれているのだろう。

かなえはそのゆったりした足取りで、リビングの入り口まで向かってくる。

だが、主人公はこたつの中に隠れているため、かなえからはみつみしか見えない。

主人公が身を隠しているせいで、リビングは全体的になんだか違和感があるが……かなえは、こう見えても急いでいる。

なので、そこまで詳しく観察しておらず、主人公がいる事には気づいていない。

●正面 15センチ

「『かなえに話しかけている。」

遠くの人と話している時特有の、ちょっと張った声で。

少し息が荒い感じで。

さらに、ちよつと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそこそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す」

……あっ♡ そ、そお。こたつの角につ。
足、ぶつけちゃって……っ♡」

▲ ボイス加工あり

「5メートルほど離れた位置から聞こえる」
〈かなえ〉

「【みつみに話しかけている。

少し心配そうに。

心配して、リビングの中を覗き込んでいる】

えっ。大丈夫ですか？

それ、超痛いですよね……？」

● 正面 15センチ

「【かなえに話しかけている。

遠くの人と話している時特有の、ちよっと張った声で。

少し息が荒い感じで。

さらに、ちよっと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそこそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す」

大丈夫……大丈夫！　かなえちゃんは、忘れ物取っといで！」

▲ ボイス加工あり

「5メートルほど離れた位置から聞こえる」
〈かなえ〉

「【みつみに話しかけている。

『みつみがそう言うなら、急いでいるし、そこまで心配しなくてもよさそうかな？』と
いう感じで」

はあゝい」

先程よりもさらに無理があったが、こたびもなんとかごまかした。

かなえは『みつみがそう言うのであれば』という感じで、リビングから去っていく。
足音はだんだん遠ざかり、聞こえなくなる。

SE 13　かなえの足音 4

「最初から最後まで流す」

【5メートルほどの距離から、だんだん遠ざかる】

5秒ほど沈黙。かなえがいなくなったのを、確認してから話しているイメージで。

みつみ、主人公に、ちよつとかわいく怒る。

● 正面 15センチ

「主人公に話しかけている。

少し息が荒い感じで。

さらに、ちよつと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそこそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す」

ちよつとお……♥もお、何するの………？」

〈主人公〉

「へへ………」

だが、今日の二人はとにかく忙しい。

会話をする間もなく、かなえが無事に忘れ物を見つけ、廊下まで戻ってきたのだ。みつみに、無事目的を果たした事を伝える。

SE14 かなえの足音5

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【だんだん近づいてきて、1回目は8メートルほどの距離で止まる】
【その後、▲1で再開する】

かなえ、先ほどよりも離れた位置から話している。

▲ ボイス加工あり

【10メートルほど離れた位置から聞こえる】
〈かなえ〉

「【みつみに話しかけている。

明るく嬉しそうに。

だが、元の話し方通り、おっとり。

忘れ物を無事回収した事を伝える】

ありました〜！」

● 正面 15センチ

「『かなえに話しかけている。

少し息が荒い感じで。

さらに、ちよつと喘ぎ声交じりで。

主人公がこそそと愛撫してくるので。

それでも、なんとか誤魔化す』

よ………かったね！ いってらっしゃい………。

気をつけてね」

〈かなえ〉

「『みづみに話しかけている。

明るく嬉しそうに。

だが、元の話し方通り、おっとり』

はい！ お騒がせしましたあ。

行ってきまゝす………！」

▲ 1 ここでSE14が再開する。5秒ほど流してSE15

SE15 かなえが靴を履く音

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

SE16 かなえが玄関のドアを開ける音2

【SE6と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

SE17 かなえが玄関の扉を閉める音2

【SE7と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

SE18 かなえが玄関の扉を施錠する音2

【SE8と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、ぼんやり聞こえる】

かくして、ようやく危機は去った。

だが、みつみはまだ警戒している。

しばらく間を開けてから、ようやく話し出した。

5秒ほど沈黙。かなえがいなくなったのを、確認してから話しているイメージで。

● 正面 15センチ

「ここから再び、すべて主人公に話しかけている。

ちよつとかわいく怒りつつも、まんざらでもなさそうな感じで。

なんだかんだ、スリルを楽しんでしまったので」

はあああ……♡

もおさあ……ひどいじゃん……♡

ちよつとの間も待てない位、そんなに構ってほしかったの……？」

〈主人公〉

「……………」

だが、先ほどの主人公のちょっとしたいたずらが、かえってみつみに火をつけたらしい。先ほどまでよりも熱っぽい吐息で、主人公に話しかけてくる。

●正面 15センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「【にやにやと嬉しそうに。

主人公が恨めしそうな目で見つめてきて『待てなかった』『構ってほしかった』と言わんばかりなのがわかったので」

あゝ……………」
♥ そっかあ ♥

みつみ、『左 0センチ』に移動して『無声音ささやき』をする。

●左 0センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「【とても優しく。

よしよしと、あやすような感じで」

……………」
♥ そうだよね ♥ ごめんね ♥

あたしがしようって言ったんだもんね ♥

クリちゃん待ってる間、切なかったね♥

いいよお。これから、今度こそ沢山、優しくいじってあげるから。

ここでこのまま、イっちゃおうね♥」※

みつみ、再び主人公の股間に手を伸ばし、手慣れた様子で愛撫を始める。

こうして主人公は、一度は抵抗するふりをしながら、今のこたつの中で犯される運びとなった。

SE19 みつみがこたつの中で手を動かす音2

【最初から最後まで流す】

SE20 みつみが主人公の性器を愛撫する音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

▲2 で一度ストップする】

▲3 で再開する】

▲4 で速度が一段階早くなる】

▲5 で速度がさらにもう一段階早くなる】

【▲ 6 でフェードアウトする】

● 左 0センチ

「【※6回※ ゆっくりと呼吸する。

興奮気味に、主人公の股間を触り始める】

はーっ……♡ はーっ♡ はーっ……♡

はぁぁ……はぁ……はぁっ……♡

【※3回※ 耳にキスする。

軽く触れるだけのキス】

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅっ♡

【声が低くなる。

にやにやと嬉しそうに。

主人公の性器がたっぷり濡れているのが確認できたので】

あく……ぬるぬるう……。

すっごいね♡ ローションとか、全然いらないねく……♡

あなたのお股が濡れてる

『ぬちぬち、ぬちぬち。ぶちぶち、ぶちぶち♡』

って音。

ここからでも聞こえちゃってるよ♪」

〈主人公〉

「……聞こえて……ないっ……♡」

● 左 0センチ

「くすくすと楽しげに。

無理のある反論をする主人公が可愛いので」

えく？ 聞こえるでしょく？

ふふふっ♡

「※耳のふちをくわえながら※ 話す。

『こっち（耳）も気持ちよくなりながら、イこうね♡』と言っている」
ほひひひもひよふなりなはら、イこうへ♡」

みつみ、主人公の性器を愛撫しながら、左耳を舐め始める。

● 左 0センチ 『耳舐め』

「※しばらく※ 耳舐めをする。

余裕があつて、ちよつとからかうような軽い感じで。

耳舐めは性器愛撫のおまけという感じで、戯れ程度に」

ああんむ……。

えれれれ……ちゅぱっ♡

じゅるじゅる、じゅるじゅる、じゅるっ♡

れーろれーろ、れーろれーろ……くぼ♡

んっく……ちゅぱっ♡

れろれろ、れろれろ、くぼっ♡

くぼぽぽ……くぼっ。

じゅる、じゅーる、じゅーる、じゅるっ♡

【※4回※ 耳にキスする。

軽く触れるだけのキス】

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅぱあっ♡
「

SE 21 ごく小さな、軽い物音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

▲2 ここでSE20が一度ストップする。

ここで、部屋の向こうでかすかな物音がする。
風の音のようだが、主人公はびくつと反応する。

〈主人公〉

「……………」

●左 0センチ

「〔余裕がある感じで笑う。〕

主人公の反応が可愛いので。

また、物音に対する見解を述べる〕

あはっ ♡ びっくりしたね…………… ♡

ただの風の音（おと）だったね。

ふふ。また誰か帰ってきたかと思ったら、違ったね ♡

〔にやにやとからかう〕

びくつとしたの、かゝわいい…………… ♡

〈主人公〉

「……………っ♡」

● 左 0センチ

「ふと気づいたように。

今の驚きがきっかけで、主人公の性器が一気にどろっと濡れたので」
んゝ……………」

▲ 3 ここでSE20が再開する。

みつみ、『左 0センチ』の位置のまま『無声音ささやき』をする。
主人公の様子に敏感に反応し、それを煽るネタにしてくる。

● 左 0センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく
「とても優しく。

あえて優しく言う事で、かえって興奮を煽る感じで」
すごい。

今ですごい、どろっと溢れてきたね……………♡

今のでびっくりして、かえって感じちゃったの……？
あはは、可愛い……♡※

みつみ、主人公の性器を愛撫しながら、再び左耳を舐め始める。

● 左 0センチ 『耳舐め』

「※しばらく※ 耳舐めをする。

余裕があつて、ちよつとからかうような軽い感じで。

耳舐めは性器愛撫のおまけという感じで、戯れ程度に」

れえろお……。

ちゅぱっ♡

れろれろれろ……ぶちゅっ♡」

みつみ、『左 0センチ』の位置のまま『無声音ささやき』をする。

● 左 0センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「『とても優しく。

あえて優しく言う事で、かえって興奮を煽る感じで」

可愛いねえ……♡

たったこれだけの事で、こんなに濡らして。

こんなにぴくぴく、身体反ったり、曲げたりして♡

濡れやすく、感じやすく、可愛いね♡」※

みつみ、主人公の性器を愛撫しながら、再び左耳を舐め始める。

こうなってしまうと、主人公はもうされるがままだ。

あとはもう、何もできずにイカされる、という未来しか用意されていない。

●左 0センチ 『耳舐め』

「※しばらく※ 耳舐めをする。

余裕があつて、ちよつとからかうような軽い感じで。

耳舐めは性器愛撫のおまけという感じで、戯れ程度に」

あんむう……♡

ちゅるっ♡ れるれるお……ちゅるっ♡

ちゅっぱ、ちゅっぱ、ちゅるるるっ♡」

〈主人公〉

「……っ♡ あ♡ あ♡ あ……！」

みつみ、『左 0センチ』の位置のまま『無声音ささやき』をする。

●左 0センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「『優しくしつつも、セクシーな感じで。』

主人公がいきそうなのを悟り、その手伝いをするように言葉でも助けていく感じで
いきそう……？

うん♡ いつでもイっていいよお……♡ イこ♡

あなたのイきたい時にイきたいだけ、イこ……？

こたつの中えっちな匂いにさせて、みんなで使う部屋でイこ？」※

▲4 ここでSE20の速度が一段階早くなる。

みつみ、主人公の性器を愛撫しながら、再び左耳を舐め始める。

●左 0センチ 『耳舐め』

「『※しばらく※ 耳舐めをする。』

主人公がイきそうなのを悟り、ラストスパート。

耳舐めもちよつと激しくする」

んっふ……♡

ちゅるっ♡ じゅるじゅる……じゅるるっ♡

くぼぼぼぼ……ちゅるっ♡

れーろ、れーろ、れーろ、れーろっ……」

みつみ、『左 0センチ』の位置のまま『無声音ささやき』をする。

主人公の絶頂は、もうすぐそこに近づいてきている。

●左 0センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「優しくしつつも、セクシーな感じで。

イきそうな主人公を優しく煽る。

少しだけ早口になる。興奮しているので。

途中、キスを交えながら煽る」

いいよ……いいよ……イって。

イこ？ イこイこイこイこ？

ちゅ♡♡ ちゅ♡♡

イーけっ♡ イーけっ♡
ちゅ♡※

▲5 ここでSE20の速度がさらにもう一段階早くなる。

みつみ、主人公の性器を愛撫しながら、再び左耳を舐め始める。

●左 0センチ 『耳舐め』

「【※しばらく※ 耳舐めをする。

呼吸音も混じって、ちよっと苦しそうに。

主人公がイきそうなのを悟り、ラストスパート。

耳舐めもちよっと激しくする」

んっく……ちゅぱっ♡

じゅるる……じゅぱっ♡

んんんう……ちゅぱっ♡

ふーっ、はーっ♡ ふーっ、はーっ♡

んんんう……♡ ちゅぱっ♡

はあ、はあ、はあ、はあ。

えれれれれ……くぼっ♡

はーっ、はーっ、はーっ、はーっ……♡

んんっうっ……♡

んっ……♡

【※ここで主人公が絶頂する。

絶頂ポイントなのを、わかりやすく表現していただく】

んんんんうっ……♡」

▲6 ここでSE20がフェードアウトする。

主人公、ここで絶頂する。

バイトに行くまでのごく短い時間に、あっさり気持ちよくされてしまった。

●左 0センチ→正面 30センチ

「【※12回※ 呼吸する。

荒い呼吸が、だんだんゆっくりになって、落ち着いて行く。

呼吸しながら、少しずつ離れていく感じで」

はあ、はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ。

はあ、はあっ……♡

はああ……はあ……はあ、はあ……♡」

みつみ、呼吸しながら少し離れて『正面 30センチ』の距離でストップする。

● 左 0センチ→正面 30センチ

「※息づかいのみ※」で表現する。

うっとり満足げに。

主人公が自分の手で絶頂したのが嬉しいので」

はあ……♡

「優しく嬉しそうに。

主人公を見つめながら。

『上手にできたね♡』という意味で言っている」

上手にイけました……♡

ふふ。今日初（はつ）イきだね♡

頑張ったね……♡

「※1回※」キスする。

軽く触れるだけのキス」

ちゅ♡

【優しく嬉しそうに】

大好きだよ……♡」

SE22 みつみが動く音

【最初から最後まで流す】

二人、キスをしながら、こたつの中で息をつく。

だが、少し外が暗くなってきた。時間が気になってくる。

なのでみつみは、身体を起こして壁の時計を見る。

それと共に、なぜかはよくわからないが、湿度計も確認しているようだ。

● 正面 30センチ

「「ちゅ」と声が低くなる。

にやにやと嬉しそうに。

部屋の湿度計を指して言っている。

『5パー』は『5%』の略」

あー。

見て。湿度5パーも上がってる……」

みつみ、『正面0センチ』の距離まで近づいて『無声音ささやき』をする。
ささやきながら、くすくすと笑う。

どうやら湿度を確かめる事さえ、行為の一環だったようだ。

●正面 0センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「くすくすと嬉しそうに。

※特に聞き手をドキツとさせる感じをお願いします※」

えっちすると、湿度上がるよね……♡

換気……しなくちやね♡

【※1回※ キスする。

軽く触れるだけのキス」

ちゅ♡※

ここでフェードアウトして終了。